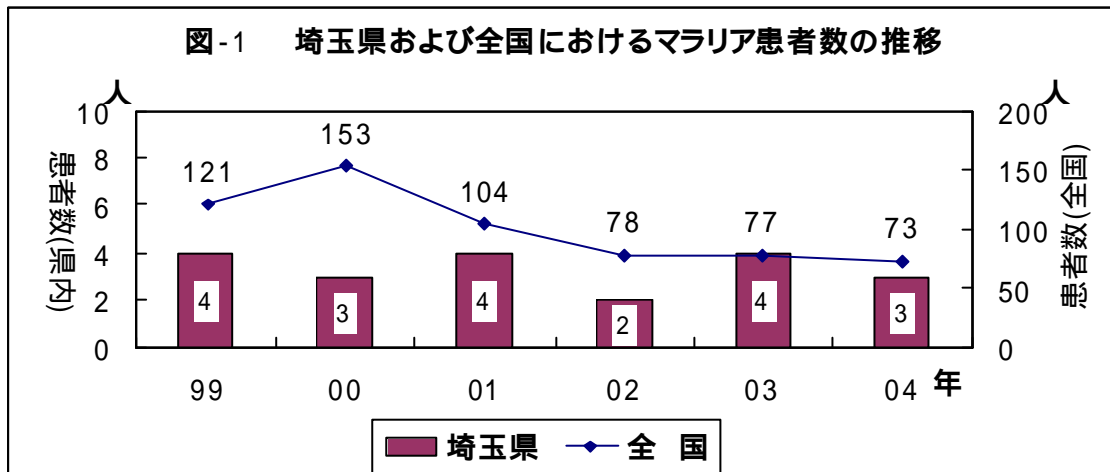


マラリア

マラリアは世界で 100 カ国以上にみられ、世界保健機構(WHO)の推計(2003 年)によると、年間 3～5 億人が罹患し、150～200 万人の死亡者があるとされています。わが国では、東南アジア、アフリカなどの熱帯・亜熱帯地方からの帰国者の罹患が問題視され、全国では年間 100 例前後、埼玉県では数例が届出られています(図-1)。

ヒトに感染するマラリア原虫は、熱帯熱マラリア、三日熱マラリア、四日熱マラリア、卵形マラリアの 4 種が知られていますが、国内では熱帯熱マラリアと三日熱マラリアの届出が多く全報告数(1999～2004 年)の 84.7%を占めています。



2005 年は、第 47 週(11 月 27 日現在)までに全国で 63 例、埼玉県で 4 例の届出がありました。埼玉県の 4 例は、熱帯熱マラリア(推定感染地域：東南アジア)と四日熱マラリア(アフリカ)が各 1 例、三日熱マラリアが 2 例(アフリカ 1 例、不明 1 例)でした。

第 39 週(9 月 26 日～10 月 2 日)に届出られた三日熱マラリアの推定感染地域不明の 1 例は、医療機関の協力による疫学調査で、韓国(今年と今年の 2 回)以外の海外渡航歴がないことが判明しました。韓国は、日本と同様にマラリア流行地域(WHO 2003 年)に含まれていませんが、1993 年ごろから北朝鮮との国境付近で再興感染症として三日熱マラリアが問題視され、2000 年には 100 名以上の患者が報告されています。また、三日熱マラリアの潜伏期は通常 15 日とされていますが、潜伏期が 6 ヶ月以上の輸入症例が報告されています(感染症学雑誌〔2003 年〕Vol.77.42-44)。当該患者の国境付近への旅行も半年以上前で、当該地域での感染も疑われる事例と考えられます。マラリアの流行地域は、アフリカ、中近東、東南アジア及び南米ですが、エアポートマラリアや東アジアにおけるマラリアの再興など、非流行地の動向にも注意が必要です。